



市議会 だより

city
assembly
report

Vol. **11**

おもな内容

- 特集 カメラレポート — 2~3
- 議案審議 — 4~5
- 常任委員会報告 — 6~9
- 一般質問 (15名が問う) — 10~15
- 特別委員会等の動き — 16~18
- 市民フォーラム — 19
- くつろぎこうか [シリーズVol.7] — 20



親子で七夕に願いを込めて
(甲賀西保育園 なつまつり)

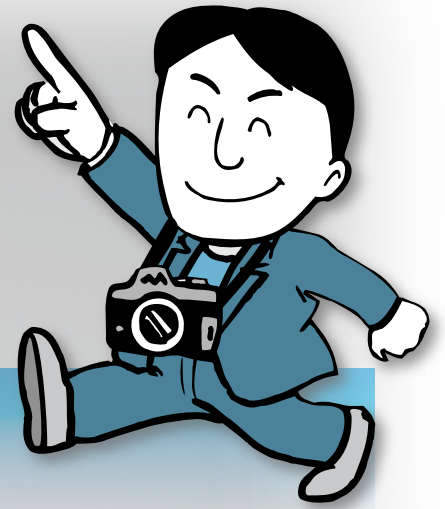
議会に関する詳しい情報は、甲賀市のホームページ <http://www.city.koka.shiga.jp> の市議会の中で議事録を検索することができます。
また各支所および各図書館でも会議録の閲覧ができます。

特集

カメラレポート

甲賀市の大型公共事業

どこまで工事進んでいるの



11月リニューアルオープン あいこうか市民ホール



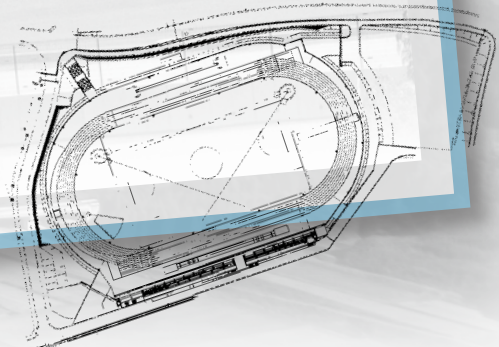
工事中のあいこうか市民ホール

県から移管を受け、名称もあいこうか市民ホールと改称。11月のリニューアルオープンに向け、工事が進行中。座席数は減りますが座席幅は54cmでゆったりと鑑賞できます。変更工事は、空調機の改修と前7列に床暖房が追加されます。

スポーツの森もリニューアル

水口スポーツの森陸上競技場は昭和51年度にオープンし、供用開始後、約30年経過しており施設全体の老朽化が進む中、地域住民等からの要望があり、現在改修工事を進めております。

完成後は財団法人日本陸上競技連盟第3種公認の陸上競技場（走路は全天候舗装8コース、インフィールドは天然芝で105m×68mのサッカーコート1面、メインスタンド約800人収容）となり、公式競技が行える競技場へと生まれ変わります。



施設のほぼ全容が見えてきたクリーンセンター



県環境事業公社 クリーンセンター滋賀

暮らしや産業活動の中で、再資源化しても、どうしても残ってしまう産業廃棄物を、適正に処分するための施設として県公社が進めている「クリーンセンター滋賀」の建設工事が、いよいよ最終段階に入りました。来春の開業に向け、安全面で重要となる遮水シートの溶着の圧力検査や、漏水の検知システムの設置などの工事が急ピッチで進められています。



遮水シートの溶着作業

工事がすすむ浄化センター（黄瀬地区）



信楽公共下水道 浄化センターの建設

県下でも遅れている信楽処理区の公共下水道一。その根幹的施設となる浄化センターの整備が急ピッチで進んでいます。平成16年度より工事に着手、本年度末には、2150㎡/日の処理能力での供用を目指しています。

耐震工事すすむ

現校舎は、昭和47年7月に焼失、昭和49年に再建築され、その後30年以上が経過し老朽化が進み耐震補強が必要となり、耐震工事と大規模改造を行なうもので18年度の繰越事業として実施。

主な工事は、耐震壁19ヶ所の設置と、屋根及び外壁・内壁の補修やトイレの改修を行ないます。

信楽中学校



1億9千万円かけての大規模改造工事

一般会計補正予算、意見書などを議決

平成19年度甲賀市議会6月定例会は、6月4日から14日までの11日間開かれました。報告11件、人事1件、専決処分7件、条例5件、補正予算1件、訴訟事件の和解1件、契約1件、市道路線の廃止及び認定2件、意見書2件が上程され、すべての案件が即決議案として採決されました。

人事

◆甲賀市固定資産評価員の選任について同意を求めることについて

倉田一良氏

〔全員賛成にて可決〕

条例の一部改正

◆甲賀市税条例の一部を改正する条例の制定について

地方税法の一部を改正する法律が、去る3月30日に公布されたことに伴い、甲賀市税条例の一部を改正するもの。

〔全員賛成にて可決〕

◆甲賀市児童クラブ条例の一部を改正する条例の制定について

甲南なかよしクラブの設置場所を変更するもの

〔全員賛成にて可決〕



移転した甲南なかよしクラブ

◆甲賀市農村公園条例の一部を改正する条例の制定について

県営中山間地域総合整備事業により大河原ふれあい広場が整備されたことによるもの。

〔全員賛成にて可決〕

◆甲賀市農村集落センター条例の一部を改正する条例の制定について

県営中山間地域総合整備事業により大河原ふれあいホールが整備されたことによるもの。

〔全員賛成にて可決〕

◆甲賀市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について

甲賀広域都市計画事業水口第二土地区画整理事業により設置された甲賀市菅谷公園を、都市公園条例に追加するもの。

〔全員賛成にて可決〕

補正予算

◆平成19年度甲賀市一般会計補正予算(第一号)

教育寄付金、後期高齢者医療制度準備経費、土山サービスエリアバスストップ整備工事等、緊急な事業発生に伴い歳入歳出予算にそれぞれ6918万8千円を追加し、補正後の予算額を328億1918万8千円とするもの。

〔全員賛成にて可決〕

訴訟事件の和解

◆訴訟事件の和解につき議決を求めることについて

平成16年4月15日に発生した甲南町のぞみ保育

園(現甲賀市甲南のぞみ保育園)児の死亡事故に係る訴訟事件につき和解することになり、その和解案について議決を求めらるもの。

〔全員賛成にて可決〕

契約の変更

◆契約の変更締結につき議決を求めることについて

株式会社フジサワ建設と契約している「あいこうか市民ホール整備工事」において、空調整備改修の追加に伴い6255万4800円の増額変更するもの。

〔全員賛成にて可決〕

市道の廃止・認定

◆市道路線の廃止について

甲賀町高野地先において、市道稲荷線を廃止するもの。

〔全員賛成にて可決〕

◆市道路線の認定について

水口町古城が丘・水口3号線、水口1号線、水口2号線、水口3号線、大河原1号線及び高野1号線の市道を認定するもの。

〔全員賛成にて可決〕



古城が丘・水口3号線

専決処分

◆甲賀市税条例の一部を改正する条例の制定について

▼反対討論 安井直明

〔賛成多数にて承認〕

◆甲賀市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

▼反対討論 山岡 光広

〔賛成多数にて承認〕

◆甲賀市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について

〔全員賛成にて承認〕

議案で審議したもの

- ◆平成18年度甲賀市一般会計補正予算(第8号)
〔全員賛成にて承認〕
- ◆平成18年度甲賀市老人保健医療特別会計補正予算(第2号)
〔全員賛成にて承認〕
- ◆平成18年度甲賀市介護保険特別会計補正予算(第4号)
〔全員賛成にて承認〕
- ◆平成18年度甲賀市公共下水道事業特別会計補正予算(第4号)
〔全員賛成にて承認〕
- ◆意見書
申請すれば一割負担に戻す「現役なみ所得」とされた70歳以上の人の医療費改善策を求める意見書の提出について
〔全員賛成にて採択〕
- ◆最低賃金に関する意見書の提出について
〔全員賛成にて承認〕
- ▼反対討論 舩 藤男
- △賛成討論 安井 直明
〔賛成少数にて不採択〕

報告

- ◆平成18年度繰越明許費繰越計算書の報告
(一般会計他5件)
- ◆滋賀県市町土地開発公社の経営状況の報告
- ◆有限会社グリーンサポートの経営状況の報告
- ◆議会の委任による専決処分の報告(3件)

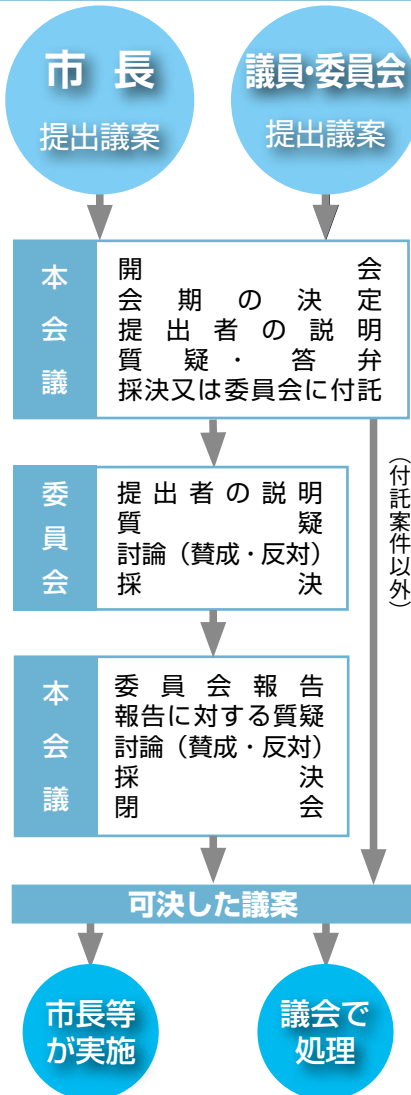
臨時会

7月2日開催

契約の締結

- ◆牧漆原地区管渠築造工事
1億7850万円
契約の相手
株式会社アルファード建設
〔全員賛成にて承認〕
- ◆信楽中学校校舎耐震補強・大規模改造工事
1億9005万円
契約の相手
株式会社 三東工業社
〔全員賛成にて承認〕

甲賀市議会のしくみ



議案審議の流れ

定例会と臨時会

市議会には、定例会と臨時会があり、市長が招集します。定例会は3月、6月、9月、12月に開催され、市の運営方針、予算など、市民生活にとって重要な事項について審議します。臨時会は、市長が必要に応じて招集する場合と、議長や議員の請求による場合があります。

本会議

議員全員で構成する会議を本会議と言い、条例や予算案などを審議・採決を行います。

委員会

市の業務は市民の多様な行政需要に応えるため、複雑で専門化しているため、詳しく、効率的に審査するために、委員会を設けています。委員会には、常任委員会、議会運営委員会、特別委員会があります。

討論

議員は議案などの採決の時、賛成か反対かの意見を表明することができます。

採決

議案について、出席議員の過半数によって賛成・反対の可否を決めます。

総務常任委員会

市行政推進の中枢を担っている委員会です

水口町名坂

水口町名坂416の2
1,519㎡。現況は駐車場として利用されているが、商業地等周辺の状況から単価設定は妥当かどうか。



水口町松尾台

「水口学園都市開発事業」が計画中に中断。旧水口町にゆだねられた土地、59,400㎡。現況は草ものび、長期利用計画が必要。



甲南フロンティアパーク

甲南町柑子2002-51、2,345㎡は、フロンティアパーク内の市有地。現況は遊休地。



甲賀町大原中

甲賀町大原中1160
3,422㎡。現況はイベント等で駐車場にも利用されているが…。



土山町北土山

土山町北土山2127
826㎡。現況は、管理組合のもとで、駐車場として利用されている。



未利用地の「市有地」現地調査

総務常任委員会では、5月22日、「未利用」となっている市有地の現況を調査しました。今回は、水口町名坂、水口町松尾台、甲南フロンティアパーク、土山町北土山、甲賀町大原中の五ヶ所を調査。現況は、駐車場として利用されている土地もありましたが、多くは管理不十分な状態で、今後の利用計画の具体化が望まれます。また、現地調査の際に、現地掌握で不備な面もあり、市の担当課に対して、指導しました。

全体として、財産台帳、土地台帳などの早急な整備が必要です。また利用計画を具体化するとともに、不必要な土地については、売却も含めた整理が必要であることも指摘しました。

支所の利・活用を
空スペースを現地視察

旧庁舎で「空きスペース」となっている部分についても、どう活用していくのか。当委員会としても現状を把握するために、土山・甲賀・信楽の支所を訪れ調査。市民に利用を公募したものの、実際には活用されていないのが実態であることもあきらかになりました。



いい利用が待たれる土山支所の旧議場

委員会報告

民生常任委員会

市民の生活と環境・福祉に関わる委員会です。

こうか流新エネルギービジョン

基準年（17年度）

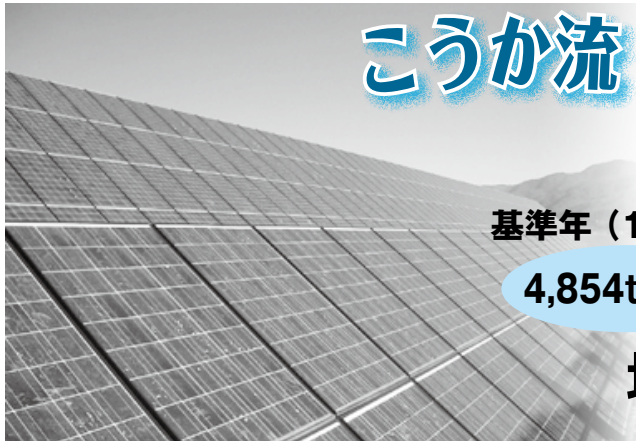
4,854t CO₂

10%削減

目標年（23年度）

4,368t CO₂

地球温暖化防止策



電気使用量の削減

エコオフィス活動による削減	目標	4%削減
高効率照明への交換		1000台
高輝度誘導灯への交換		100箇所
設備改修による消灯		19500kw削減

空調設備の燃料使用量の削減

空調施設改善による削減	目標	21%削減
空調機器の省エネルギー機器への交換		27213kw削減
出先機関の空調施設改善による削減		-

公用車の適正利用

公用車の省エネルギー運転	目標	4%削減
ハイブリッド車の導入		5台導入

資源対策および新エネルギーの導入

エコオフィス活動による再資源化	目標	4%削減
太陽光発電システムの導入		100kw
木質バイオマス熱利用施設の導入		1基

「こうか流新エネルギービジョン」は、市内のエネルギー消費の現状や新エネルギーの賦存状況を調査するとともに、市民アンケートをもとに、CO₂排出量の少ない石油代替

エネルギーとしての「新エネルギー」への転換をはかるため、甲賀市の自然資源活用や市民が率先してすすめる新エネルギーシステム、産学官民連携、循環型社会の実現、地域産業・伝

大量生産、大量消費、快適・利便性を求めるライフスタイルがエネルギーに大きく影響し、結果として地球温暖化をはじめとする環境問題を引き起こしています。甲賀市では地球温暖化防止策のひとつとして『こうか流新エネルギービジョン』を

策定しました。民生常任委員会では5月17日、担当課からビジョンの概要を聞くとともに今後の取り組みについて議論しました。また甲賀市が独自に取り組んでいる生ゴミ堆肥化循環システムの現状と今後の方向についても議論しました。

自然資源を活用した新しいエネルギーの創出

を23年と設定し、具体的な目標を設定しています。

「こうか流新エネルギー」としての「新エネルギー」への転換をはかるため、甲賀市の自然資源活用や市民が率先してすすめる新エネルギーシステム、産学官民連携、循環型社会の実現、地域産業・伝

甲賀市に存在する新エネルギーの期待可採量（新エネルギー全量のうち、現在及び将来の開発で利用が期待される量）は、年間17・8×10¹⁰キロカロリー。これを一般的な世帯あたりのエネルギー消費量で換算すると年間1万7千世帯をまかなえると推定されています。その内訳は、太陽光発電・熱利用が85%、バイオマス発電・熱利用が約8%。風力発電が3%。市では、特にバイオマスエネルギーに力を入れているということでした。

7つとは、天〓太陽光発電の導入、木〓森林や農作物などのバイオマス資源、地〓地中熱の利用、風〓風力発電、水〓マイクロ水力発電、学〓子どもの森やスポーツの森での環境学習、そして庁内率先して新エネルギーを導入するという計画。すでに目標年度

委員会では、目標値の現実性や財政面などについて質疑が出されました。今後、先進的事例等の研修を重ね、協議していく方向です。

生ゴミ堆肥化循環システム 現状と今後の取り組みの方向

生ゴミ堆肥化循環システム参加世帯数は、現在5828世帯、うち水口以外の参加は1223世帯です。市では23年度までに2万世帯まで広げる目標ですが、第一段階の1万世帯まで広げるためにど

うするのか。民生常任委員会では、重点推進自治会を指定した取り組みや、市民へのPR、水口以外の地域での普及活動の強化が必要との意見が出されました。

文教常任委員会

文化やスポーツ、教育に関わる委員会です



伴合幼稚園

『こども未来課』が
今年度より新設

主要施策を調査

市内保育園・幼稚園児童の就学前教育の重要性と、保育・幼児教育の連携、また将来のあるべき姿を検討するために、窓口を甲南庁舎の教育委員会内におき、保育担当と幼稚園担当が統合されました。また、良好な子育て環境を整備し、保護者の多様なニーズに対応する総合的な施策を形成し展開するために、就学前の子どもに対する行政サービスの窓口を一元化し、「こども未来課」が本年新設されました。

今年度の主要施策

①平成18年10月に文部科学省から通知のあった幼児教育児童振興アクションプログラムの趣旨に添って、本年度「甲賀市幼児教育振興計画」の策定を予定しています。この計画は、幼児教育全体の向上を図ることを目的としています。

②甲賀市幼児教育の指針として、『みんながつくる「人 自然 輝き つづけるあい甲賀」を担う子どもの育成』となっています。

③保育園、幼稚園で同じカリキュラムにより、発達段階に応じた指導を行ない、各年齢の到達目標を同じにし、よりよい就学前教育を目指すため、カリキュラムの検討をして、平成20年度から同じカリキュラムにより保育を実施していこうとするものです。

④総合計画、「甲賀市の就学前教育と保育のあり方」に基づき、各地域の課題を踏まえて、保育園、幼稚園の今後の方向性を示し、施策の展開を図っていこうとするものです。

現在、甲賀市内では、一部地域で園児数の減少に伴い、子どもの集団が形成しにくくなっており、園の運営面でも非効率となつています。またその一方、保護者の就労環境等により乳児保育へのニーズが高まり2000人を超す園もあり、極端に園児数の多い園では延長保育児も多く、職員の勤務シフトに困難を生じています。

土山地域と信楽地域には幼稚園が未設置であり、合併時における調整方針に基づき、その設置の差異を平成20年10月までに調整する必要があると見られます。

保護者ニーズに対する選択肢を拡大するため、幼稚園、保育園及び幼児一元化施設の設置のあり方を検討し、保護者の育児負担を軽減するため、地域の実情に合わせて、短時間保育（保育園）及び預かり保育（幼稚園）を検討されます。また、

待機児童「0」に向けた方策も検討されます。

「幼保一元化」

現在、保育園は厚生労働省、幼稚園は文部科学省の管轄になっております。幼保一元化とは、幼稚園と保育園の所管、根拠法、設置基準、教育・

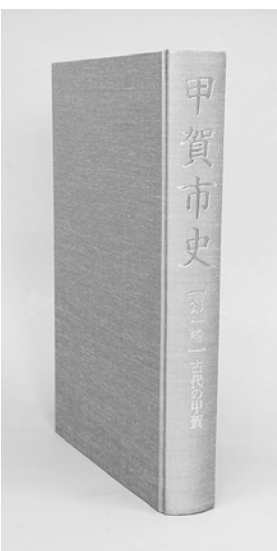
保育内容等を一元化して就学前教育を行うことを言います。児童の教育と保護者の要望にこたえるため、国では、0歳からの未就学児を対象に、親の就労状況にかかわらず、教育や保育といった子育て支援を行う「認定こども園」の制度をスタートしています。

甲賀市史第1巻発行

歴史文化財課市史編さん室

市史の編さんは、甲賀市が持つ豊かな歴史文化を、通史的にまた分野別に紹介する。全8巻構成での刊行が予定されています。第1回配本となる第1巻（古代の甲賀）は、本年12月の刊行予定で編集作業に着手されました。

この事業は、甲賀の歴史文化を市民が共有し、誇りを持てるまちづくりの基礎的な資産として親しみ活用され、合わせてふるさと意識と郷土愛の醸成を願って実施するものです。



12月発行予定の甲賀市史第1巻

委員会報告

産業建設常任委員会

農業・観光振興・交通・上下水道の整備に関わる委員会です

当委員会では、甲賀市全域の所管事務の現状を認識することを目的に、集中的な事務調査を行なっています。

前回の信楽地区の調査に引き続き、甲賀地区、土山地区の事務調査を実施しました。

土山地区の現地調査

6月19日(8ヶ所)

まとめ 歴史ある街道文化と豊かな自然あふれる土山地域を視察し、大野地区街なみ環境整備事業をはじめとする旧東海道の修景保全の重要性と観光資源としての活用を実感しました。また、鈴鹿山地からの清流を利活用し、土山漁業協同組合が管理されている黒滝遊漁場や、大河原地区においての

農村公園施設の整備状況を視察し、今後、自然体験をはじめとする都市との交流がより促進されることを望むものです。

当委員会としても、地域資源の有効利用による地域活性化について、今後も積極的に調査を行なっていきます。



旧東海道の整備事業を視察



大野地区街なみ環境整備事業を視察



クリーンセンター滋賀建設現場



甲賀中学校前の歩道拡張

まとめ 唐戸川飲料水供給事業は、合併時の要望にそって、土山町からの上水道受水を行なうものです。地域への安全で安定した水道水の供給がされるよう工事の早期完成が望まれます。

クリーンセンター滋賀設置事業の現場では、供用開始に向けて、地元地域の御理解と御協

力をいただきながら、環境こだわり県としてふさわしい安全で安心のできる施設整備を図っているとのことでした。

開業されて25年が経過したバイエル薬品(株)滋賀工場では、施設の概要説明を受け、衛生管理の徹底した近代的な生産ラインに感心させられました。



唐戸川地区での飲料水供給施設

甲賀地区の現地調査

5月17日(9ヶ所)

市政を問う

一般質問

15人の議員が登壇

○より詳細な内容はインターネットで
ご覧になることができます。

平成19年第3回甲賀市議会定例会一般質問

平成19年6月13日・14日

順番	議席番号		質問事項
1	5番	鵜飼 勲	1 市立中学校へのAED（自動体外式除細動器）設置について
2	23番	白坂萬里子	1 2年後に始まる裁判員制度について 2 防災・災害復興の分野にもっと女性の視点の参画を 3 「マタニティマーク」の積極的な推進・活用を
3	8番	酒巻 昌市	1 希望が丘本町地域の公園改修及び用地取得について 2 歩道の設置計画及び通学路の歩道設置について 3 道路の維持管理及び道路保全について
4	1番	山岡 光広	1 新幹線栗東新駅計画について 2 国民健康保険 滞納問題と保険証の取り上げについて 3 同和行政終結にむけた課題について 4 はしか対策について 5 新治で出土した飛鳥時代の埋もれ木の保存について
5	7番	木村 泰男	1 甲賀市事業仕分けの結果について
6	21番	安井 直明	1 定率減税廃止に伴う住民税の増税の中で、子育て支援として中学校卒業までの医療費の無料化を 2 より便利なコミュニティバスの運行について 3 市営住宅の今後について 4 市有地、旧庁舎の空き室など市の財産活用について
7	6番	土山 定信	1 新名神高速道路の鈴鹿トンネルの漏水及び水質について 2 土山サービスエリアについて
8	20番	中西弥兵衛	1 新名神開通後の広域救急体制について 2 国道、県道における異常時の広報連携について問う 3 国・県要望に対する市長の取りくみ方針について問う
9	4番	拙 藤男	1 中小企業の活性と中学生の職場体験学習について
10	28番	橋本 律子	1 「愛ある甲賀」実現のためより積極的施策を！ 2 健康・福祉のまちづくりについて
11	22番	友廣 勇	1 入札について 2 入札監視委員会について 3 学校教育の現状について
12	2番	林 勝彦	1 住宅用火災報知器設置について
13	11番	小松 正人	1 アルプラザ水口（水口平和堂）周辺の道路通行環境等の整備促進を 2 大池寺・名坂自然公園の保全・整備事業の促進を 3 県指定伝統工芸「八田焼」の支援と保存活動について 4 水口町八田字込田地先の農用地について ① 昭和54年度、旧水口町単では土地改良事業による圃場整備が実施された。その後当該農用地2ha余りの埋立ては、開発許可が出されているか ② 字込田農用地「込田329-5」「込田329-6」の2筆が埋立てされ、地目「田」から「宅地」に変更された経緯を問う ③ 字込田農用地「込田329-3」1筆が前出の2筆に続いて埋立てされている。違反転用ではないか。
14	13番	加藤 和孝	1 「思いやりのある駐車区画」の設置について 2 障害者自立支援法に関連して 3 読書環境の整備について
15	24番	岩田 孝之	1 ニホンザル被害対策について



ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです



水口庁舎玄関に設置されている AED

議員 鶴飼 勲

Q 学校への AED 設置は

A 不可欠で全小中学に導入

問 近年、児童・生徒のスポーツ試合中の不慮の事故による心肺停止発症時の一次救命措置の重要性が指摘されている。県立学校への AED 設置は昨年度中にすべて完了している中で、県内の市立中学校で AED が一校も設置されていないのは甲賀市を含め四市であるがその設置についての市長の所見は。

市長 甲賀市での AED の設置状況は、水口庁舎

玄関をはじめ四ヶ所に設置しているが、本年度は地域性を考慮し、甲賀地域と信楽地域の公共施設に設置する予定である。いつでもどこでも誰にでも起こりうるような心肺停止者の応急措置については、救急車到着までの五〜六分が重要であり、一分ごとに蘇生チャンスの 7〜9% 低下すると言われており、現場での AED による救命率が高いとされている。大切な子どもたちの命を突然失うという痛ましい事故から守るためにも AED の設置は不可欠で、市内 6 中学校全てに早い段階で導入する。市内小学校については、救急通報受信後より救急対応への時間を考慮し、遠隔地小学校より今後速やかに整備を行なう。

Q 2 年後に始まる裁判員制度

Q

A

市民に研鑽の場を

白坂萬里子 議員

問 2 年後に始まる裁判員制度。「参加したくない」等、消極派の人のためにも法教育や研修会、フォーラム、模擬裁判など幅広く市民に推進、提供しては。

市長 市民にわかりやすく理解してもらおうためにも、県下に先駆け 4 月に設置した当市法務室専門職員により、市民が研鑽していたく機会を多く持てるよう、各種団体の協力も得て取り組んでいく。

問 防犯・災害復興の分 ※中学校における法教育の実態についても質問。

野に、男女のニーズの違いを把握したうえで、もつと女性の視点を取り入れた対策が必要と考えらるが。

市長 本年度、公募による女性消防隊（現在 13 名）を発足することができ、女性の防火防災に対する関心の高さを改めて認識した。今後、防災に対する女性をはじめ、高齢者、障害者等、それぞれの立場の方に配慮し、防災体制の強化に努めていく。

問 マタニティマークの積極的な推進・活用を。

市長 全国統一マークが公表になったことから、幅広くマークの推進を図る為、ゴム印やポスターを作成し啓発をしていく。妊婦さん本人へは、母子健康手帳交付時にシールやかばん等につけるストラップを配布するよう手配した。



マタニティマーク

議員 酒巻 昌市

Q 湧水部分（希望ヶ丘本町）の保全を

A 修繕工事の発注事務を進める

問 道路の維持管理及び保全について伺う。
自治区とタイアップした管理手法について。

建設部長 ロードサポーター制度を通じ自治区と連絡を密にして道路管理を行う。

問 希望ヶ丘本町 1 丁目入口より 100m 部分は老朽化が進み湧水等を含め早期保全を。

建設部長 本町 1 丁目付近から 5 丁目付近までの間の延長 940m について舗装修繕工事の発注事務を進めています。

問 希望ヶ丘本町 1 丁目及び 7 丁目の道路公園は階段が 50 段ほどあり、また、急傾斜でお子さんやお年寄りが利用出来る公園への改善計画を伺う。

建設部長 1 丁目の道路公園から整備手法及び時期等協議検討をしていく。



急がれる湧水部分の道路

問 歩道の設置計画の具体的な取り組みを伺う。

建設部長 歩道については当面緊急性のある路線を優先に整備を推進する。

問 町民運動場線（ニューポリス）・高塚線（耕心）の歩道設置について伺う。

建設部長 道路路肩を利用したグリーン帯の設置等歩道整備に代わる手法も視野に入れ検討する。

一般質問

山岡光広 議員

Q 飛鳥時代の杉の古木保存を

A 「ふれあいの館で保存」検討

凍結・中止の方向で大きく動いている新幹線栗

東新駅問題、5億4千万円にも膨らんだ国保税の滞納解決と保険証の取り上げ許さない問題、同和行政の終結にむけた課題について、大人のほしかり予防対策、第二名神工事中に新治地先で出土した杉の古木の保存について市長、教育長らに質問しました。そのなかから新幹線問題と杉の古木の質問と答弁要旨を紹介しま

す。

問 新幹線栗東新駅計画は、県民の世論を受けて大きく動いている。現状をどう見ているのか。

市長 県民の世論を鑑み、促進協で幅広い議論を行い早期に結論、合意に努力していきたい。

問 市長の考えは…

市長 流れは、凍結の方

向である。

問 第二名神工事中に出土した杉の古木は、664年に伐採されたものと特定され、甲賀柚との関わりでも貴重な歴史資料。市として保存し、文化財として認定すべき。

教育長 甲南庁舎、ふれあいの館で展示する方向で検討している。県と連携して文化財指定にむけて要請していく。



664年に伐採された杉の古木。加工痕が残されています。

Q 事業仕分けの結果は

A 当初の目標に沿った評価

木村泰男 議員

昨年11月25日、甲賀市の55事業の必要性や誰が行うべきかを分類・評価する「事業仕分け」が、専門機関の外部評価員に

市民代表を加え公開で実施された。全国的にも先鞭を切るこの取り組みとその結果について問う。

問 事業仕分けの意義や目的は

市長 真に行政が担うべき事務事業のあり方を検証し、見直しを図る手法として実施。職員意識改革にもなる。

問 どう生かされたか。

市長 日程上19年度予算要求に反映できなかった

が、予算編成過程に生かされた。6月7日に市ホームページに分析含め公表。

問 成果と課題は

市長 市民の視線で財政や協働の観点から事務事業について検討できた。事前準備や当日の論議を通じ職員の意識改革を促せた。しかし、職員個々の資質の向上や今回の取り組みの意義が十分に理解されたとは言えない。

問 今後の事業仕分けは

市長 事業仕分けは一定期間経た後に総点検として実施。来年度からは毎年行政評価を実施する。

問 事業仕分けの結果は

企画部長 不要3、県が実施1、現行通り市で実施7、市で改善して実施43、民間1であった。

問 参加職員の感想は

企画部長 時間不足や意見活用の方途に課題を残すが、概ね当初の目標に沿った評価を得た。



安井直明 議員

Q 医療費の無料拡大を

A 検討を継続する

問 定率減税廃止に伴う住民税の増税問題をどう考えるか。また、子育て支援として中学校卒業までの医療費の無料化を実施せよ。

市長 医療費無料化は、多額の負担が必要だが、少子化・子育ての支援の見地から検討を継続する。

問 コミュニティバスは、より便利になるよう、安全対策と系統図をつけよ。また、ジャンボタクシーなどを走らせよ。病院前などに上屋を設置せよ。

市長 計画的に整備する。

問 市営住宅への入居希望者が多い。今後の計画は。補修費の確保は。寺庄住宅の今後はどうか。

建設部長 住宅計画に基づき進めていく。



水口松尾台の未利用地 53,000㎡



Q 新名神鈴鹿トンネルの漏水は

A 「環境に影響無い」との報告

土山定信 議員

問 トンネルにより滋賀県側の湧水を三重県側に流すことについて、甲賀市の基本的な考えは。

建設部長 トンネル周辺地域における河川の水位への影響も生じておらず、トンネル内の湧水が三重県側に流れることによる自然環境への影響は無いものと考えている。
問 漏水対策として、水をあげ滋賀県側に戻す約束がされていたのか

建設部長 協議はトンネル工事以後継続しておこなわれていたが、覚書などの記録はない。
問 三重県側に流れている水量について把握しているのか。また、川の水量の変化は



建設部長 トンネル内の湧水については中日本高速道路(株)が、上下線で湧水の計測を行なっており、毎月その平均値が記録されている。また河川の水量の変化については、中日本高速道路(株)より、トンネル工事後の流量が、工事前の最低水量を大きく下回ることも無かったとの報告を受けている(漏水量毎分120ℓである)。

問 土山サービスエリアについて

市長 観光情報の発信や特産物のPR機能を備えた施設になるように土山ハイウェイサービス(株)に申し込んでいる。

中西弥兵衛 議員

Q 新名神開通後の広域救急体制

A 連携して有効運行に努める

問 来年3月の開通をめざして工事中の新名神の甲賀市域約32kmにおける事故発生時の甲賀広域消防の出動範囲と担当部署(土山分署含む)を問う

総務部長 市内延長約32kmと土山ICと亀山IC間の上り線、信楽ICと田上ICの下り線の救急、火災業務について甲賀広域消防本部が担うことになる。高速道路の災害対応は各ICからの進入が原則です。

問 信楽消防署の現体制の中で新名神への救急出動があった場合、一般救急支援体制は大丈夫か、広大な山村、へき地に位置する信楽の場合、他署からの応援では一刻を競う救急に対処できるのか市民の不安が高まっており安心できる対応を望む。

総務部長 新名神の開通にともない救急、火災等の対応は当然増加すると思われるため消防署と市が一層連携を強め対応したい。



増車、増員が求められる信楽消防署

Q 中小企業の活性化と条例

A 条例は考えていない

拙 藤男 議員

問 町の活性化は中小企業の活性化が町の発展に繋がる大変重要な要素と考えております。中学生の職場体験学習を通して情報誌を作り全市に配布され、中学生自身が街づくり応援サポーターとして社会に貢献する気持ちを育てると言う事例に

共感し、甲賀市の中学生職場体験学習はどのような状況にあるのか伺う。
教育長 中学生職場体験学習は、市内多くの事業所の協力により全ての中学2年生に対して行っている。新聞は甲南中と信楽中で発行し校区内や自治会で回覧していただいた。今後も貴重な体験ができる事業を継続し受け入れ事業所様にも何らかのPRになる事業展開を考えていきたい。

問 事例では職場体験学習が産業振興課主導で行われており、甲賀市においても部課を越えた連携事業や取り組みがあるのか、また、町の活性化のため中小企業条例の制定等の考えはあるのか。

市長 中小企業の活性化は当市においても重要な課題である。課題解決のためハローワークや仮称甲賀市工業会とも連携を図っていく段階に来ており現時点での条例制定は考えていない。



中学生による企業情報誌

一般質問

Q 市民満足度に向けた施策を

橋本律子議員

A 事務改善委員会で具現化

問 行政改革推進・実践計画策定中での不祥事。住民への信頼回復及び効果的行政システム創りをどう築くか。

企画課長 苦情・クレームは事務改善への提言と捉え、再発防止のシステムづくりに取り組む。また、対応能力の向上・実践へとつなげ、事務改善委員会等で具現化し実行していく。

問 県との連携により、将来的な本庁舎のあり方についてどう考えるか。
市長 本庁舎は昭和40年建築され、狭隘化や一部老朽化による耐震強度不



耐震強度不足が課題である本庁舎

足の課題もある。現段階では新築計画は持っていない。県との協議はなんらしていない。本庁、支所庁舎含めて今後の検討課題だ。

問 地域福祉推進体制づくりの現況を聞く。

市長 実施計画を本年9月末日途に策定予定。地域福祉推進委員会を新たに設置し協議いただく。

問 甲南庁舎周辺での計画についてどう考えるか。

市長 本推進計画が目指す、地域福祉活動や住民交流に活用できる拠点施設が必要と考えるが、財政厳しい現状、新たな施設ではなく、既設施設(福祉・教育)の活用も合わせて検討したい。

友廣 勇 議員

Q 教育委員会の今後のあり方

A さらに開かれた教育委員会へ

問 本市における「ゆとり」教育の実情は。

教育長 ゆとり教育すべが悪いとは考えない。子ども達が日々充実した学校生活を送り、スポーツや文化活動で大きな成果をあげている。また、「特色ある教育活動」もふるさと甲賀を愛する子ども達の育成に寄与している。

問 「学力の低下」からの見直しでは。

教育長 教育再生会議で学力を向上させることがあげられ、「読み書き計算」等基礎・基本の反復徹底と応用力の育成を図ることを最優先に取り組むことが示されている。

問 平成元年の指導要領改訂で、先生の立場が「教える」から「学ぶのを支える」と変えられたが、ここが問題点では。



毎月1回開催される教育委員会

教育長 教育の根本は、きちんと「教える」ことである。ただ、子ども達の持つ課題は多様化しているため、決め細やかな指導・支援は必要である。

問 教育委員会は、現場や保護者から乖離しているのでは。

委員長 教育現場を会場にするなど現状の把握や諸問題に対処しているが、更に開かれた委員会とするため努めていく。

Q 火災報知器設置状況は

林 勝彦議員

A 消防本部と連携し取組む

問 消防法が改正され平成18年6月より新築住宅及び既存住宅すべてに住宅用火災報知器の設置が義務付けられたが、新築住宅の設置確認方法と市営住宅への設置計画、市としての今後の取組はどのように考えているか。

総務部長 新築住宅の設置確認は建築確認申請時に図書で確認し、完了時に検査機構等による完了検査で設置確認をしている。消防検査が必要な共同住宅等は実際に立ち入り確認してい

る。市営住宅は現在空家を除き、466戸を管理しており、火災報知器の設置については平成23年5月までに、年次的に設置するよう計画している。平成23年6月の適用時期までの市としての取組としては、市広報紙等で火災予防記事のなかで掲載を行い、同時に消防団員における地域啓発等に取り組んでいるところである。しかしながら、猶予期間がまだあることなど、住民の皆さんの認識は高くないと感じており。消防本部と市において、尚一層連携し、あらゆる機会を通じて、普及啓発に取り組み、住宅用火災報知器の設置推進に協力したいと考えている。





小松正人 議員

Q 農振「田」で
車販売が許されるか

A 原状回復を通知し厳正に対処

問 大字八田字「込田」地先の農地2・4haの嵩上げは、形状変更の許可は要らないか。嵩上げで甲賀市所有の水路と県道の一部法面までが埋立てられたのは違法ではないか。又搬入土から異物が出るかと聞く。どこの土か。

しながら、直後に県の許可が出ています。何故か。
事務局長 15年1月に2筆は合筆し、宅地変更されていたので農地法は適用外となった。

問 込田329番3は、調査によると、相続未登記の地目「田」である。違反転用だ。

市長 当該農地は転用許可できない。県・管理監督機関と協議し厳正且つ迅速に対処する。他に八田焼の支援策などを質問しました。

再問 地権者らはブロック片や廃用鉄筋など確認している。調査せよ。

事務局長 調査はさせてもらう。

問 込田329番5と込田329番6の2筆は転用経過に疑惑がある。違反転用の勧告を出す。



最新作の八田焼

Q 思いやり駐車区画を

A 市の施設から実施を検討

加藤和孝 議員

問 内部障がい者、高齢者、妊婦、ベビーカー利用者等の「思いやり駐車区画」を設置すべきでは。

健康福祉部長 ユニバーサルデザイン推進協議会で市全体の方向付けをしていただき、「思いやり駐車区画」につき、市の



伊賀市の「思いやり駐車区画」

施設から実施できるように方針を決定していただきたいと考えている。

問 障害者自立支援法における利用料一割負担を補助する本市緊急プログラムにつき、差額だけを支払えばよいようにすべきでは。

健康福祉部長 一部事業所で、補助金受け入れ後に利用者に返還しているケースがある。各事業所と調整のうえ、補助分を差し引いて利用者に請求するよう指導してまいりたい。

問 平成17年9月の定例議会で、本市における「子ども読書活動推進計画」策定の必要性を訴えた。その後の対応について伺う。

教委事務局長 関係課や図書館長会議で策定委員会発足に向け準備を進めている。本市の図書館協議会等の意見を参考に教育委員会の承認を得て、平成20年度に策定を計画している。

岩田孝之 議員

Q ニホンザル被害対策の成果は

A 18年度48頭の捕獲

問 鳥獣害対策係を設置して2年目になるが今日までの成果はどうか。

産業経済部長 17年度のニホンザルの捕獲頭数は4頭であったが、18年度は各種施策の実施や共同で捕獲する体制の整備により、48頭と成果に結びついている。

問 19年度のニホンザル被害対策事業予算は。被害対策事業予算は。

産業経済部長 家庭菜園の防護柵の設置に対し資材費の3分の1で助成額5万円を限度に実施する。また信楽地域で獣害対策共同事業を実施し、サル接近警戒システムは甲賀A群に設置し調査を実施する。

問 特定鳥獣保護管理モニタリング調査結果と対策はどうか。



人家に侵入する直前のオスザル

産業経済部長 この調査は群れの特性を調査し被

特別委員会の動き

第二名神
対策特別
委員会

好評です。新名神見学&ウォーキング
― 県内の舗装工事本格化 ―



甲南トンネル附近を歩く参加者たち

西日本高速道路(株)は、来春の完成をめざして工事の進む仮称第二名神高速道路の正式名称を「新名神高速道路」にすると決定しました。現名神の渋滞を緩和し、災害時の代替ルートとなることから「新しい機能を持つ道路」として名付けたとのこと。現在、舗装工

事が本格的に進められ来年1月までに完了の予定です。全体工事の進捗率は約90%です。大津工事事務所では地域の皆さまに「新名神」への理解を深めていただくため現場見学会やウォーキングを実施しています。また、信楽高原鐵道が地元ボランティアガイドの会の協力を得て、今年3月より4回にわたり実施した「文化の薫る天平の都ウォーキング」には市内・県内はもちろん、大阪や神戸等の県外組も合わせて約700名の方々が参加されました。鐵道、新名神、紫香楽宮址、東海自然歩道を楽しむコースで、信楽IC周辺では、いろはモミジの記念植樹も行なわれ大変喜ばれたと



記念植樹を楽しむ参加者たち

のことです。また市内の小学生を対象に教室では味わえない貴重な体験見学会も行われており、子供たちに大きな希望を与えております。本市でも現在「開通記念イベント実行委員会」を設置して、今秋と来春の2回、多くの市民の皆様に参加していただける企画を検討中です。甲賀市に夢と活力をもたらし新名神の早期開通を願うものです。

地域情報化
推進特別
委員会

地域情報通信基盤の検討
― 未来に向けての地域情報化 ―

情報通信技術が飛躍的に発展する中で、政府は「e-JAPAN政策」をうち出し、いつでも・どこでも・何でも・誰でも利用できるネットワークが利用できるネットワーク社会の実現を目指しています。

市内においても、情報の格差是正や情報の一元化といった問題の解決と高度情報化社会に適應した行政サービスの提供や充実が望まれます。

情報格差

高速インターネットなどのサービスが受けられることのできない地域や携帯電話の電波が入りにくい地域があるなど、地域によって情報を受信できる環境に差があります。また世代によつては、必要な情報を受けたいサービスが異なる場合もありま

す。誰もが恩恵を受けられる地域情報化についての現状の検討をしています。

情報化によるまちづくり

市民の皆様や企業の立場で市内にどのようなサービスやシステムがあればよいのか、どのような情報を流せばよいの

か、また情報を活かしたまちづくりを具体的にどう実現するのかなど、特別委員会として調査研究をすすめていきます。

災害時における市民の安全確保の観点から重要課題であり検討を重ね推進してまいります。



調査研究をすすめる委員会

特別委員会の動き

交通対策
特別
委員会

高原鐵道とコミュニティバスに期待

「新名神」との関連で

今回は、信楽高原鐵道の現状と事故調停状況、コミュニティバスの運行状況について調査をしました。また、「新名神」に伴う土山バスストップの現地視察を行いました。

●高原鐵道の現状は

平成11年度をピークに通学生や観光客の減少から厳しい経営内容となっています。

サンタや盆梅、ホテル列車などとともに、体験ツアー、窯元散策ウォーキングとそば打ち体験など食との連携も図ったり、企画切符の販売などを取り入れ、利用客の増加を図っています。

●痛ましい信楽高原鐵道

列車衝突事故から17年。遺族補償については、終了していますが、高原

鐵道とJR西日本との補償費清算にかかる負担割合の協議の調停は、不調に終わっており、その解決に向け努力がなされています。

●コミュニティバスは

現在30路線140系統を走っており、利用客も増えている。また、路線統合や広域化によりバス走行にかかる経費も削減されました。委員会で

は、県の補助金の動向やバスの小型化、経費削減などが議論となりました。

安全管理と

利用客のニーズをつかみより便利なコミュニティバスになるよう

期待するものです。

●「新名神」開通に伴う

土山バスストップ現場を視察

平成20年春の開通をめぐり新名神の工事が急ピッチで進んでいます。今回補正予算で土山バスストップの上屋など1千万円が見込まれています。その現場を視察しました。



バスストップの予定地を視察

産業廃棄物
対策
特別委員会

「安全で安心できる」生活環境を

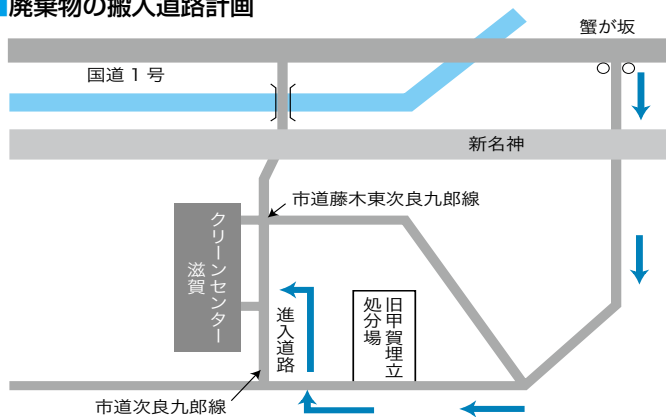
クリーンセンター滋賀工事すすむ

クリーンセンター滋賀の設置事業は、産業廃棄物管理型最終処分場で、廃棄物の排出を抑制し、暮らしや産業活動の中で、再利用・再資源化し

てもどうしても残ってしまった産業廃棄物を、新しい技術基準に基づき、適正に最終処分するための施設です。

その建設状況を把握、チェックするとともに、常に安全で安心な施設となるよう意見を具申しており、以下は建設工事の施設の概要です。

●廃棄物の搬入道路計画



●施設計画

①貯留構造物

貯留構造物は、埋立廃棄物の流出や崩壊を防ぎ、埋立られた廃棄物を安全に貯留するために設けるもので、重力式コンクリートダム構造です。

②遮水システム

主遮水工として遮水シートと粘性土層等を合わせた多重の表面遮水工を施工します。またリスク対応遮水工として貯留構造物直下流部に連続地中壁による鉛直遮水工を設けています。地下水モニタリングにより管理することに加えて遮水シート破損検知システムを設置して浸出水の漏洩対策を行っています。

③浸出水処理施設

施設内で発生した浸出水は集排水設備によって集められ、浸出水処理施設（最大処理能力：350㎡/日）で処理します。浸出水は下水道投入基準を満たす水質まで浄化し下水道に投入します。

組合議会の動き

行政組合

水口消防署土山分署 庁舎建設工事着工！

平成20年春、新名神高速道路の開通をひかえ救急体制の整備を図るため、老朽化している水口消防署土山分署の庁舎建設工事が着工されました。

また、庁舎完成時に合わせて近年の各種災害の多様化、また増加する救急出動に対応するため最新の装備、資機材を備えた高規格救急自動車が配備されます。

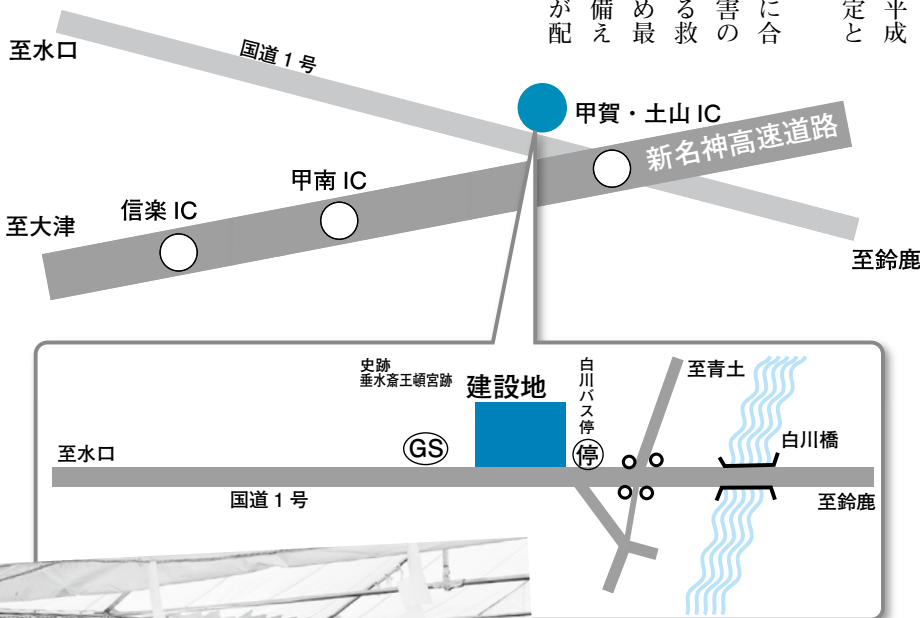
6月27日(水)土山町前野地先の土山分署移転場所(図参照)にて、安全祈願祭・起工式が行われ、甲賀広域行政組合議会議員、服部議長以下四議員(葛原、橋本、中島、今村)が出席、工事期間中の安全を祈願致しました。

新土山分署は、鉄骨造一階建 総面積354.80㎡で現在の2.4倍の建物となります。総工

費は6690万円、平成20年1月31日完成予定となっております。

また、庁舎完成時に

合わせて近年の各種災害の多様化、また増加する救急出動に対応するため最新の装備、資機材を備えた高規格救急自動車が配備されます。



関係者が出席して起工式が行われた



クワ入れをする中嶋行政組合管理者

市民フォーラム

伝承文化財の保護を

土山町北土山
中島 仁史

鈴鹿峠の登り口に「蟹塚」と呼ばれる小さな石塔があります。昔、旅僧に退治された大きな蟹の塚だと言われ、地域の方が大事に守っておられます。甲賀市には、立派な指定文化財や埋蔵文化財が残っていますが、一方、「蟹塚」のように歴史の記録に登場せず、地域に語り継がれただけの文化財もたくさんあります。それらは、地域に深く根を張って暮らした庶民の文化と言えましょう。地域に残っている伝承文化財を発掘、記録し、そして大切に保護し子孫に繋いでいくことの大切さを歳とともに感じております。

名神名阪連絡道路の早期実現を望む

甲賀町神
廣岡 茂樹

近畿・東海地方を東西に走る基幹道路である新名神高速道路が、ようやく来春に開通の運びとなりました。3つのインターがある甲賀市にとっては関係地域の振興が大いに期待されるところです。しかし、これと南北に交差する名神名阪連絡道路については、いわゆる忍者街道の期成同盟会が平成9年に発足して以来、計画路線の「調査区間」に指定はされたものの国の道路建設抑制のため進展のないまま今日まで推移してきました。新名神の供用が間近になった今こそ、甲賀市総合計画に位置づけられているこの路線の早期実現に向けて、隣接する伊賀市と連携しながら鋭意努力されるよう強く望むものです。

若者が進んで従事の農政を

甲南町下馬杉
西本 恵一

近年3ちゃん農業がいっそう加速し、私も専業農業者になり3年目を迎えました。還暦が済んでからの認定農業者、担い手農業者、集落内においても定年退職者の集り農業といった有様です。中山間地農業、世代をつなぐ農村まるごと保全対策等打ち出されていますが本当にこれで地域にマッチした農業を営むことができるのか心配。農機具と肥料、農薬、燃料の高騰、反して米価の下落で、若者に農業の担い手になってくれとは言えない状況である。若者が進んで農業に従事できる農業政策をお願いするものであります。

地域にスポーツ施設を

水口町山(第四水口台)
黒田 慶子

本市に於いては、生涯スポーツ振興を図る為に総合型スポーツクラブの設立を図ってこられました。それぞれそれぞれの体力や年齢、興味、目的に応じて、誰もがいつでも、どこでも、いつまでも生涯を通じてスポーツを楽しみ、健康で、生きがいのある生活をおこなう。そして、成人の週1回以上のスポーツ実施率を50%に上昇する。この総合型スポーツクラブの設立よりかわり、運営していくに当たり痛切に思う事があります。伴谷地区は近年他府県や近郊からの人の流入が急増し、人口が11,000人と激増した地域ですが、昼間に利用できるスポーツ施設がありません。夜間の学校施設の開放のみではスポーツ人口は増えていきません。何卒、スポーツ施設を兼ねたコミュニティ会館の建設を強く希望します。

子どもに茶道を

信楽町長野
奥田 英行

最近の信楽焼業界はどうなっているのか。人口が減少する状態にあるのを見ればわかるであろう。次世代の担い手にもっと何を求めていく必要があるのか。それは世界の人々が求める日本文化を詳解しながら、その中で信楽焼が世界で羽ばたく陶器になるように様々な勉強が必要ではないでしょうか。そんな中で日本文化の集大成は茶道です。抹茶を飲む時には「御前頂戴いたします」と手を着いて挨拶します。保育所、小学校でも抹茶、煎茶の飲む機会を作っていただき幼少の頃から茶道の中で日本文化の一端を学んでいただけたらと思います。

くろぎこうか

Vol.7

土山 野洲川上流

緑の山々と清流に恵まれ、一部は鈴鹿国定公園にも含まれる土山町大河原・黒滝・山女原地区。

夏こそ自然とふれあう絶好の季節。今回は家族や仲間と楽しく遊べる、やすらぎのスポットをご紹介しますしよ。

お魚たいけん 黒滝遊漁場

豊かな自然を背景に、清流でアマゴ・イワナ・ニジマスをつかみ取りや釣りが楽しめる「黒滝遊漁場」は、手軽なレジャーの場として最適です。つかまえた魚を料理できるバーベキュー施設もあり、本年からは体験学習施設も整備され、シャワー室やトイレ



清流での魚つかみは気持ちいい

なども充実。川魚の種苗育成施設（稚魚）の見学など、体験学習の場としてもいいのでは…。

深呼吸ふれあい広場

かもしか荘の北側に大河原地区農村公園「ふれあい広場」が誕生しました。公園全体の面積は8000㎡を越え、美しい景観に恵まれた芝生広

場での野外スポーツや、ゲートボールなど、新鮮な空気は何よりも心を癒してくれます。活性化施設「ふれあいホール」は諸会合にも利用でき、多目的ホールでは室内スポーツなども楽しめます。

夏といえはカブトムシ

子ども達の人気ものはカブトムシ。「あけびはら山の子はうす」は、都市と農村との交流、自然観察や体験学習の場として昨年竣工しました。

ふれあい体験棟のハウス内には、地域の人達の努力で、人工孵化されたカブトムスが飼育されています。（もちろん購入もOK）。自然と共に生きる人々の豊かな感性が醸しだされる文字通り体験学習の場です。



自然がいっぱいのふれあい広場



山の子はうす 研修棟



カブトムシの里 体験学習ハウス

編集後記

▶「議会だより」では、各議員の質問事項を限られた紙面の中で、内容を市民の皆様に伝えることはなかなか難しいものです。それぞれの議員の思いは、各自の責任において紙面にさせていただいております。

▶情報化の進む中、甲賀市も議会の全内容はインターネットでも公開されていますので、紙面と併せて見ていただければ嬉しい限りです。

(広報委員 舂 藤男)

ニュースの目

寺庄駅周辺整備

現在、国のまちづくり交付金を受け、六角堂や周辺道路の整備が行われています。駅の南・北側では組合営の区画整理が事業中で、特に来年度からは駅舎改築と自由通路（南北行き来可能となる橋梁）が設置される予定であり、市街地促進と駅利便の向上が進められています。



区画整理が進んできた駅周辺